



大阪対がん協会報

2016年5月号

公益財団法人 大阪対がん協会

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18 朝日新聞社内
(中之島フェスティバルタワー 15階)

TEL 06-6201-8029 FAX 06-6201-8615

E-mail : office@osakacancer.jp HP : http://www.osakacancer.jp

がん研究助成奨励金

今回も若手研究者・医療従事者 15人に贈呈



大阪対がん協会（会長＝堀正二・大阪府立成人病センター名誉総長）は3月8日、朝日新聞大阪本社アサコムホールで平成27年度がん研究助成奨励金の贈呈式を行い、大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 助教の木戸屋浩康さんら15人に奨励金30万円、計450万円を贈呈しました。

がん研究助成奨励金は、がんの予防と治療に役立つ研究や取り組みに従事している個人やグループを助成・奨励するもので、今回が56回目。若手育成を目的とし、応募資格は「基礎」「臨床」「疫学」は満40歳未満、「看護等」は満45歳未満の研究者・医療従事者に限っています。

27年度は66人から研究成果の応募がありました。選考委員13人の審査結果をもとに、2月22日に開かれた選考委員会（委員長＝堀会長）で受賞者15人を選びました。受賞者は今回で延べ1674人、奨励金総額は3億9430万円になっています。

贈呈式では、堀会長が受賞者の皆さんの業績を評価すると共に、今後の活躍に期待しますと挨拶しました＝写真右。続いて受賞者一人一人に、会長から賞状と奨励金が手渡されました＝写真上。



受賞者を代表し、木戸屋さんは自らの研究内容を紹介し、「本日の受賞は、日々の研究活動を進める上での精神的な大きな励みになります。重要な基礎研究とは成果を得るまでには時間がかかるもので、特にアカデミアにおいては、マイルストーンを設けない自由な研究こそが、画期的な治療法の種となるものです。このような意味において、自分の研究がどこまで、またどの方向に発展するのか、その可能性を試せる研究助成奨励金というのは、私達にとって大変重要な意義があります。そして、時間がかかるかもしれませんが、本奨励金を活用し、私の全精力を持ってして、癌治療法を創出する決意を新たにしております。」と話しました＝写真左。

※なお、この事業はバイエル薬品とMSDにご支援をいただいています。

(受賞者は2ページに掲載)



平成27年度がん研究助成奨励金 受賞者

(敬称略、50音順)

※年齢は平成28年3月末時点

【基礎の部】

| 氏名 | 年齢 | 所属 | 研究題目 | 受賞回数 |
|--------|----|-----------------------------------|---|------|
| 木戸屋 浩康 | 36 | 大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 助教 | 生体内分子イメージング技術を用いた、腫瘍血管形成モデルの検証 | 1 |
| 木村 亨 | 36 | 大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器外科学 助教 | C型ナトリウム利尿ペプチドによる癌微小環境を標的とした新しい癌治療法の基盤確立 | 1 |
| 今野 雅允 | 35 | 大阪大学大学院医学系研究科 消化器癌先進化学療法開発学 助教 | 疾患特異的iPS技術を用いた家族性膵癌発症機序の解明と診断マーカーの同定 | 1 |
| 数藤 孝雄 | 37 | 大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科 特任助教 | 二光子励起顕微鏡を用いた生体イメージングによる白血病幹細胞の薬剤耐性機構の解明 | 1 |
| 松崎健一郎 | 33 | 大阪大学 蛋白質研究所 助教 | 相同組換えによる組換え体選択メカニズムと染色体構造異常の解明 | 1 |
| 三吉 範克 | 39 | 大阪府立成人病センター 外科 医長 | 固形がんの初代培養法の確立と臨床応用 | 1 |

【臨床の部】

| 氏名 | 年齢 | 所属 | 研究題目 | 受賞回数 |
|-------|----|--|--|------|
| 大平 新吾 | 29 | 大阪府立成人病センター 放射線治療科 診療放射線技師 (医学物理士) | 金マーカーを指標とした膵癌の体内動態の解明と回転型強度変調放射線治療への応用 | 1 |
| 笠島 裕明 | 32 | 大阪市立大学大学院 腫瘍外科 大学院生 | スキルス胃癌微小環境における骨髄細胞動員機序解析と癌間質抑制治療法の新規開発 | 1 |
| 河嶋 厚成 | 38 | 大阪大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍免疫学共同研究講座 特任助教 | 泌尿器癌組織内エフェクター制御性T細胞に対する新規治療標的因子の探索 | 1 |
| 杉村啓二郎 | 38 | 大阪府立成人病センター 外科 医長 | 食道癌手術時のICGを用いた気管血流評価方法の開発 | 2 |
| 宮崎 安弘 | 39 | 大阪大学大学院医学系研究科 外科系臨床医学専攻 外科学講座消化器外科学 助教 | 胃切除後超早期栄養介入に関する大規模ランダム化比較試験～胃癌術後体重減少の克服にむけて～ | 2 |

【疫学の部】

| 氏名 | 年齢 | 所属 | 研究題目 | 受賞回数 |
|-------|----|------------------------------------|--------------------------------------|------|
| 森島 敏隆 | 38 | 大阪府立成人病センター がん予防情報センター 企画調査課 主査 | がんの診断・治療から死亡までの地域連携の実態の変遷と病院・地域による違い | 1 |

【看護等の部】

| 氏名 | 年齢 | 所属 | 研究題目 | 受賞回数 |
|-------|----|------------------------------------|--|------|
| 嘉戸 怜子 | 35 | 大阪大学医学部附属病院 看護部 がん放射線療法看護認定看護師 | 乳がん術後放射線治療における皮膚乾燥が放射線皮膚炎に及ぼす影響～皮膚角質層水分量の変化と影響する要因の検討～ | 1 |
| 四方 文子 | 43 | 大阪医科大学大学院 看護学研究科 博士前期課程 大学院生 | 内分泌療法を受けている若年乳がん患者の療養生活体験 | 1 |
| 濱口 佳子 | 39 | 堺市立総合医療センター 副師長 | がん治療を受けている患者を雇用する企業が抱える困難とニーズ～必要とされる情報提供とこれからの就労支援～ | 1 |

—— 厚生労働省 ——

がん検診実施のための指針 改定版を公表

厚生労働省は「がん検診」に対し、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」を改定しました。新指針で変更になった項目は、胃がん検診と乳がん検診です。

胃がん検診は、従来の胃部エックス線検査（いわゆる胃透視バリウム検査）から、「胃部エックス線検査または胃内視鏡検査のいずれかを選択する」に変更になり、対象年齢を50歳以上としましたが、胃部エックス線検査は当分の間40歳以上を対象としても良いとしています。実施回数は「2年に1度」としましたが、胃部エックス線検査は年1回実施しても良いとなっています。従来、40歳以上を対象とし、胃部エックス線検査を年1回実施してきたことを当分の間踏襲しても良いとするものですが、50歳以上の胃内視鏡検査（2年に1回）を新たに導入することが主な変更点です。

乳がん検診には従来、乳房エックス線検査（マンモグラフィ）と同時に医師の視触診が加えられていましたが、新指針では視触診は推奨しないとされマンモグラフィ検査のみで良いことが示されました。以上の変更が各自治体に通達されましたが、医療現場は対応できていないのが現状です。全国的に見ても本年4月から新指針に沿って胃内視鏡検査が実施できる自治体は少なく、府内においても当分、従来の「がん検診」が実施される予定です。胃内視鏡検査を検診項目として実施する場合の具体的な統一マニュアルが出来ていないこと、検診施設の受け入れ準備が間に合っていないことなどがその理由です。胃がん検診が新基準で施行されるのは、早くても平成29年度からと予想されています。

（会長・堀 正二）

春の啓発イベント

「遺贈セミナー」（主催 日本対がん協会・大阪対がん協会）

3月18日（金）大阪市北区の阪急ターミナルスクエア・17でがんと相続・遺産贈与についてのセミナーが開催されました。第1部は日本対がん協会 垣添会長が「がんと人間と社会」をテーマとして自身の経験も交えての講演。第2部は三井住友信託銀行の財務コンサルタント山極氏が「円滑な相続に向けて」を演題に話しました。会場は満席でご夫婦での参加も多く、がんと相続・遺産贈与についての情報を提供することができました。参加者全員にくじ引きで記念品もお渡しすることができ、有意義なセミナーになりました。



会員のみなさま

賛助会員継続・会費振り込みのお願い

大阪対がん協会にご協力をいただきありがとうございます。今後ともがん征圧活動にご理解をいただき、2016年度(平成28年度)も会費のご協力をいただきますようお願い申し上げます。同封の払込取扱票をご利用ください。なお、振り込み手数料につきましては、誠に恐縮ですが、ご負担をお願いいたします。

引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

●がん検診サービス券 今年度も会員の皆様に配布

2011年度から会員特典として、がん検診サービス券を発行しています。6年目となる2016年度も引き続き、会員の皆様にサービス券=写真=をお送りいたします。詳細については同封の「ご利用方法」をご覧ください。



..... 理事会報告

大阪対がん協会は3月8日の理事会で2016年度の予算と事業計画を承認しました。

今年度予算額は1750万円で、がんの予防とがんに関する知識の普及・啓発活動や研究助成などの公益目的の対がん事業費に1198万円、会員向け事業に197万円、法人の運営に使う管理費には355万円を計上しています。費用に占める公益目的事業の比率は68%となっています。今年度の協会として取り組む公益目的事業とその他事業(会員向け事業)は以下の通りです。

【公益目的事業】

- (公1) がんの知識・予防等の普及啓発
- 講演会・イベントの開催
 - がん情報の提供・検診の奨励
- (公2) 学術研究への助成
- がん研究助成奨励金事業

【その他事業(会員向け事業)】

- がんに関する情報の発信
- がん検診の案内

2016年度 がん征圧スローガン

【最優秀賞】

大切な あなたと一緒に がん検診

【優秀賞】

がん検診 気づいた今が 受ける時
あなたから 受けて 広めてがん検診
がん検診 体の声を聞く一歩

※ 日本対がん協会がグループ支部に公募し、審査の結果選出しています